

科目	単位	時間	履修学年	講師名
物理学	1	30	1	
ねらい	看護に必要な物理現象の意味を理解し、看護技術に応用できる。			
回数	授業内容	授業方法		
1回目	1. 重いものを持つにはどうしたらよいか	講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 試験		
2回目	1) 力のモーメントとてこの原理			
3回目	2) 筋肉の張力と関節に働く力の大きさ			
4回目	3) 腰にかかる力と正しい姿勢			
	4) 看護ボディメカニクスの物理			
5回目	2. 身近な圧力			
6回目	3. 呼吸器と吸引の物理			
7回目	4. 点滴静脈注射の物理			
8回目	5. 循環器の物理			
9回目	6. 感覚器の物理			
10回目	7. 体温制御の物理			
11回目	8. 臨床場面で用いられる医療機器の物理学			
12回目	1) レーザー光、超音波診断装置、超電導			
	2) バイオ・セラミクス、放射線と放射能			
13回目	3) 重粒子線治療、磁気共鳴画像装置 (MRI)			
	4) 陽電子放射断層撮影 (PET)			
	5) レーザードップラー式血流計			
14回目	6) 形状記憶合金、サーモグラフィ装置			
14.5回目 (45分)	7) ファイバースコープ			
15回目 (45分)	終講試験			
教科書	看護学生のための物理学 (医学書院)			
評価方法	筆記試験 (1時間 [45分間]・100点)			
備考				